

研究参加者の募集

— 青年期(中高生)の強迫性障害に対する家族包括的治療 —



強迫性障害と家族介入

強迫性障害（OCD）とは、強迫観念や強迫行為によって日常生活に支障を来すものです。

※強迫観念

無意味で不適切、そして侵襲的な思考・イメージのことです。

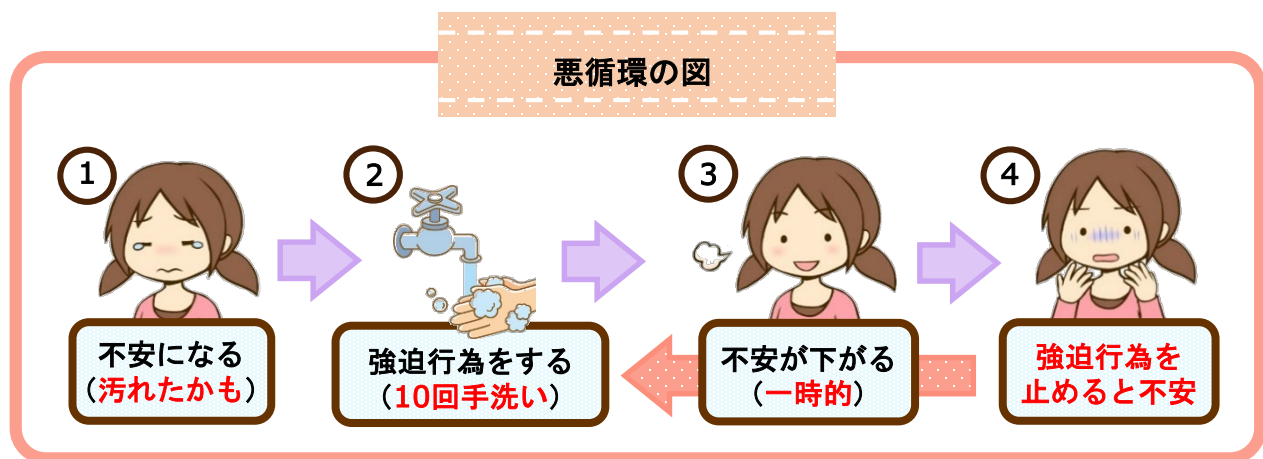
（例）「手が汚れて、ばい菌を広げてしまうかも。病気になるかも」

※強迫行為

強迫観念によって高まる不安を緩和するために行う行為のことです。

（例）「汚いものに触ったら手を**10**回洗う」

悪循環の図



多くの方に**回避・巻き込み**も見られます

回避

手が汚れるから
外出をやめよう...

巻き込み

ママ、大丈夫って
言って！

これまで海外では様々な研究が行われ、患者さまが一人で認知行動療法を受けるよりも、**家族も治療に参加するほうが高い治療効果を得られる**ことが確認されました。

このため、私たちは青年期（12-17歳）のOCDを持つ人を対象とした、家族も治療に参加できる「**家族包括的治療プログラム**」を作成しました。海外で有効性が確認されたプログラムを踏まえ、日本語で調整しています。

本研究にてプログラムの有効性が確認され、治療の質が向上し、選択肢が増えることを目指しています。

家族包括的治療

FIT-O

Family Inclusive Treatment
for
OCD adolescents

研究参加について

◆ 参加可能な患者さま

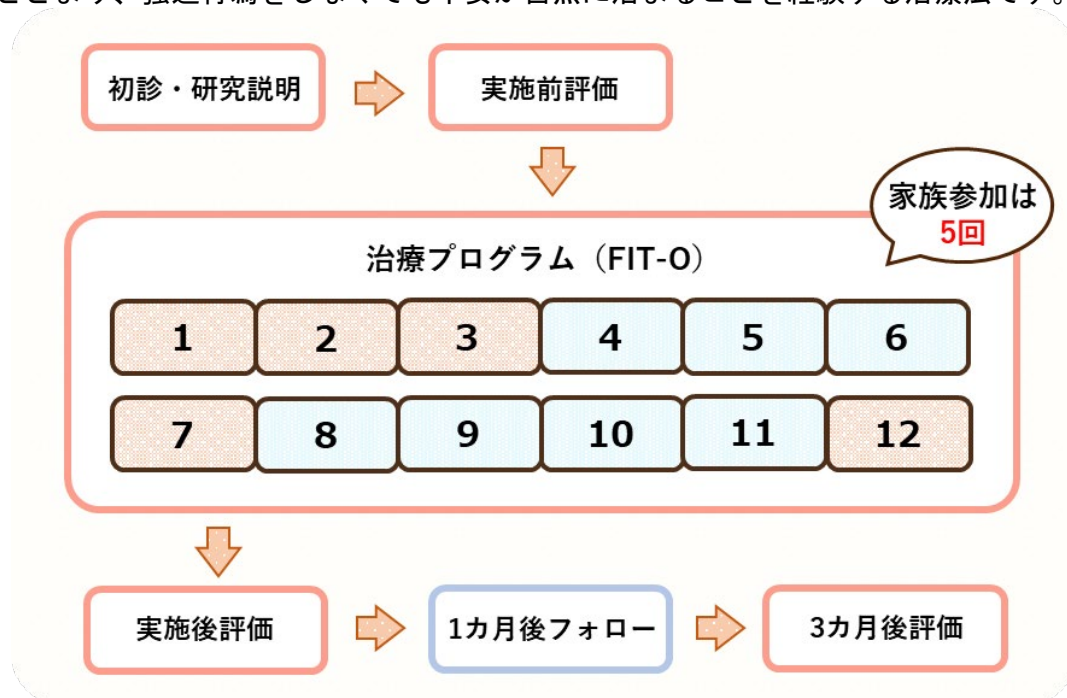
- ・ 強迫性障害の診断基準を満たす、12歳以上17歳以下の方
- ・ 治療プログラム（ほぼ毎週）と評価を含め、全17回に参加できる方
- ・ 薬物療法との併用は可能ですが、研究参加前12週間の内服の変更がなく、研究参加中は薬物調整を行わないことに同意いただける方
- ・ 本研究の目的や内容を理解し、研究参加に同意いただける方

上記内容に該当している方は、研究に**参加可能である可能性**があります。
（初診時診察・研究実施前評価を行い、総合的に参加が可能か判断致します）
本研究について相談を希望される方は、下記の「お問い合わせ先」をご確認下さい。

◆ プログラム内容

全12回、1回1時間、基本的には毎週1回のセッションです。

曝露反応妨害法（ERP）に取り組みます。ERPとは、あえて不安感や不快感を抱く状況にとどまり、強迫行為をしなくても不安が自然に治まることを経験する治療法です。



◆ 場所

名称：金沢大学附属病院 子どものこころの診療科
住所：石川県金沢市宝町13-1

◆ お問い合わせ先

Mail：cbt_fit@yahoo.co.jp
電話：076-265-2856
担当：児童精神科医
紺谷恵子（こんたに けいこ）

